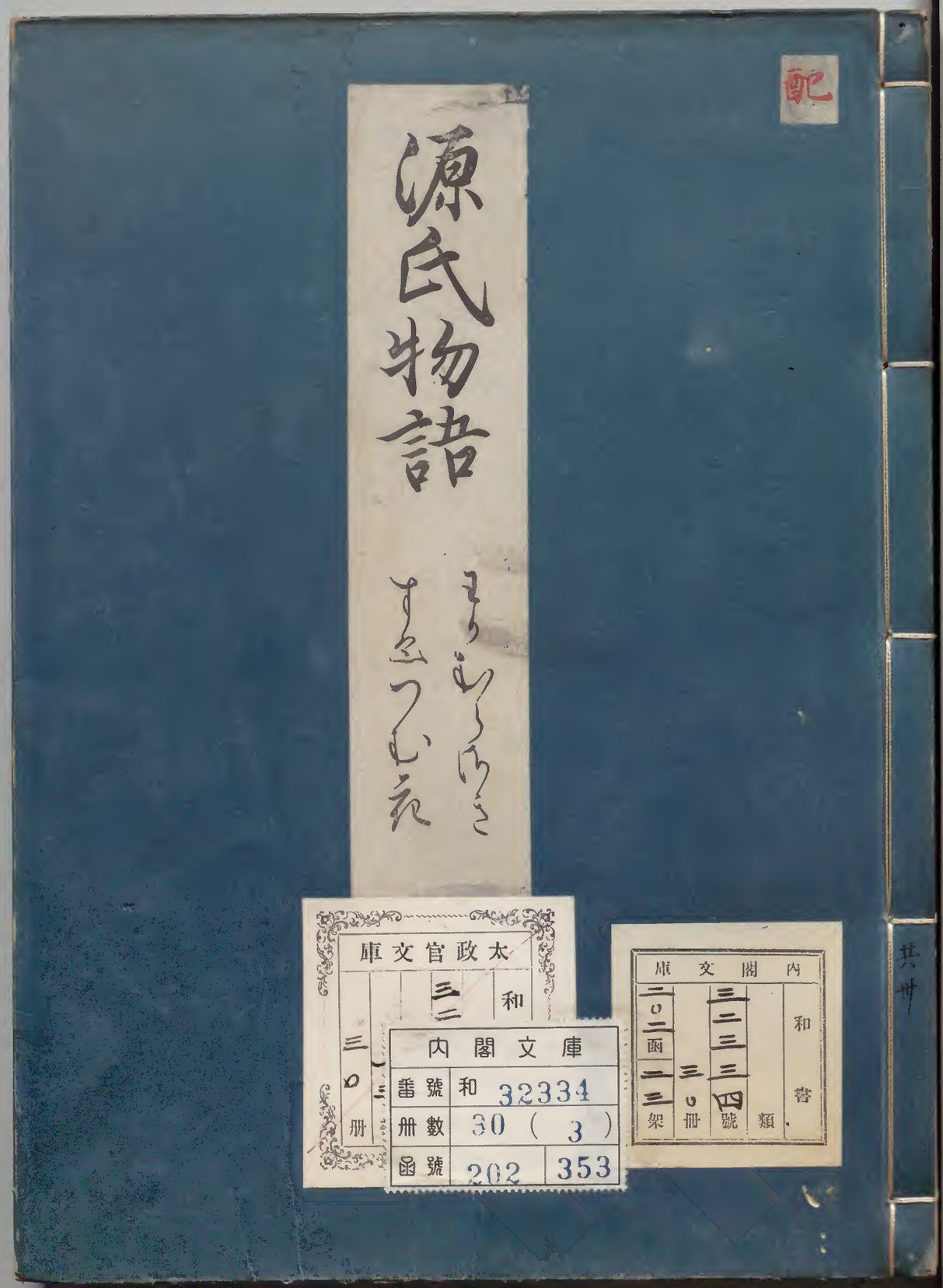


国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

わらはやうなるわざしひてよろづなまひがひ
なるまいてせめへどもうなくてあまるあめび
とこりのひろれば あるへさるまなんるまじ
てこといふ所(ところ)のようなるさまをこなひ人侍(はべ)るその夜(よ)
もうるはをうてへごまじなひどひーとやう
てとぶもうるびなのまる仏さまをこうつる時(とき)に
うてはるはどくこそ心(こころ)をもつ聖(ひじり)なる
れば(源)まはうるまるおいうごまりてむろの
とるもまでずとやうれば(源行)いうごもんたのび
てもれをんとのまてれともるむつまりこさ口
五人ぐらうそまぐ暁(あかつき)おなりやうるる有

なりそう三月のつごもりなれば京の花ざかり
くれゆくよそう山のこうこうまでさかりそで
もておくすまよ霞のくずもひもおりうう
こゆれどうつりさはもなもひ絡づ有をされ
方をそめづくうおばされうちのこはもいと
あくれなすこれくみるき岩のなるそひ
ごをいりおこうけ

のぼりて、誰とも知せぬこと、いとうと
やつれ人へれど、ものさされなれば、あかう
うや、一日めしはやまや、おりまする、いまは
これ世のことにはさひ人へれば、げんぐさのねこなひ
もすてもすれて、ゆくをいとうかうおりまし
てんとおぼろさまは、ざうちもこつこうてま
つ、いとこうとさだいとこなりそうべきもの
けりてぞせてまつうちなどまいる程日
くくあぐめず立出つくわうしの人
ぐさあまてこうこ僧坊どもあらはまこ
ろさ、ぐしはぐらありのこもおること

ぐなれどうくくしこわてこさきなるやら
うなぐこそぐちいとうあるよ人のす
ひとくひ人へばけとこもなる人これなんなる
ぐ僧坊のこのこと世こもり坊まこべる
なるころこびこさ人もむなる所まそなれ
あやしうもあまりやけこれこさまそ
これなどのおこさうげなるわくはなどあるる出
こそおくこてまつり芝ありなどすもあくる
これぐこる女こて宿分れ僧都はもやうは
す人語ぐといこすこ人なんとちぐいふり
てのそこもありおこげるる女ごもわこる

人びとくべたんゆるといふ（係）ゑいをたひし給
ひつ日たるまるいうたんとおぼしをを
侍人行とうまぎこふさせおておほしいれぬるんく
ゆるとこさこゆ行ぶ（係）うしるのゆまちを生て京の
うるとこのふぎうるるすこわうりて空（よと）の情（こゝろ）そこ
そこたうぶりわるれるほどをいくくまる
かれうるるすむ心（侍行）をおもひのうすこと
あくうとのうまへぶこれていあくゆり
人のうるたぎるゆうるゆまのうる宿（あり家）たぎを（ぎん）
きをせてゆぶいうるゆるいうぎうまうをせ給
くんようのゆまたるぶしのぶけたぎうりこう

ホ四

ゆうもあるまるまのうるれおもろさうく
いてのうへをいひぶうるもありてうろぶまま
ぎううるるる（良清行）さあるはぎうまれあう
の海（うみ）そたばうるゆれたるのいうりあるく
まはたるれぎうで海（うみ）のおもてまわるしるほど
たんあやしくくうるあるずゆびうたるある
ゆうれたるれされのうるこぼうれ（ゆ在）さあう
ぎうるいへいうるいううだ（ん）の殿（ゆう）まておう
ますべうけうへの世のひがまれまてまぎうひ
もを涙（えん）を清（ちぎ）の手（ちぎ）をまるすぎ給をりける
つうたれどれまの人（いな）まるすうゆうれて

なるのめいぼくまて文拙まもりへらんといひて
うらもおろて作るけるとぞうしおくまりしろ
山ずみもきでさる海づくるいぞおろひぐくちさき
やうなれどげるれるのうちまさまへのうち
あべきこもりたぞうさとひかく
どそれ必すぐやうさいのさひとびめべさま
ちりけ心をやれうすまるなん作るさいり
ちまちりそぐりて作るついぞまけうさ海さまへ
まりて作るくば京まてこてあるめやうぬなれ
そそそそそそそそいあるうこめてつれうさ海さ
はいへどそうのはうさまてしきさけること

水五

なれば海りのようひゆるさうるみべさ必ぐまへまる
なくさうそうなのうれはまもいてそうてて
中くはうしまそうしうさへまんそうけう
とりきばさてそれむさあくさひまふまく良清汁
ういあるばうそうち心ぐせなど作なり代くのうまの
はうさなぐうういくまてさる心ぐへうなれ
どさうるうけひるば我身のくいるづくしば
めうぐまあるば京みへひとりにそあれさまる海
しなるまし我れをそれてそれうろざしとげず
うみさひさうすくせるばぐうるいりねと
つまゆひごんしをそて作るなぐアゆ祈ぐ玉ほ

もかしこきまつぶへぐういあるうのきさき
ゆきべきいはぐさむすめたちぶかさるーや
そてわらはうくいつかいとりまれうこのこれそう人
ちりこしこうかりえこうたちりりいすきるる
ものなれいうよ入乃のゆいどんやがりつべる心い
あんこしさてたくずこうたちんといひあな
いでやさいふもわなうびこんおるくりうう
あるかひいでふるめいこうおやよのこるがひ
さんいけこそゆへあるんべれうきわうど
わこいなど勢のやんごたきころくりが
いこれこうぶひこりてまばゆくこそこそうす

それなきこれなきさんはなりてゆばさて心やすく
てしもえをきこそこをやなどいてあり繁かか
ぶりて海のそこまでかこいこんそこの
みるめもおむつこうなどのなてこどなるばか
はしこうかやうまてもなべてなこばまてひがを
ちこここれこるふばこうこれいれみくぐまう
んやここそこまつこれうめれどこうせ
ぬこばなりめこそいあれこやうんせ結
なんとあうばいここれものけなどこそれう
きあこおいまこけうどこひなばこけうる
うちなどまつていそこせまへとはこるもある

ゝゝれ人ゝすゝみ（ほ）もうゝ接（ゝゝ）ゝゝひ沿ハ
ねゝゝすゝゝおゝゝゝゝゝ（あつき）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すてられぬこちなりとて、ずいぶんめ
子をいとおもふ心ばせ、ふかくこめて
つゝみもたゝずいとゝ、ふかくこれを居る
おもれ（お伽草子）いの心なりのゝわざをしてさいる間
ゐくゝそいとゝろづさなれいづくへゝまう
さめるいとゝおもしろやくなりつるものゆゑ
すてゞもたゝそこいけれて立てゆくゝゆり
らるいとなぐめやすきひとゝおもり（せうなん）が納言
のめとゝぞ人いふめるくゝこれこのうしろみか
ゐをし

のまぶいであるかおさるあやいふうひなうまれし
路れとのがかくふのすとなりめるいのちとぶ
なるとともおぼしてとでずめさてひ路ほどよ
はこうこうこそとつねよさこゆるばふくとて
しらやといへづいおうつ(淵)つきいてらうげ
まそぶねのわうちうあいけるくいやり
まうひさいつさうむざいうこまいてとびび
ゆんさ海ゆ一さ人れとめまうり治さういうぎ
アとなくふをつてアゆうひ(坂ひ)いうまうて
まれれうがまもうぬうそうとつまも泪で落る
あまざさうさ代うさなでつけづうとそもうり

ホ九

さうまへどおうのれぐでやいくくうなう
まし路うて衣(あれ)ようしるめまれうぐうり
なれぐいくうあ人あ把を(紫毋)こひめぶは十二
まそのよとれのしはぐいくうものいこひ
まうのへりしでうぐで今とのれまてそま
つぶいうでうるおうせむしすんうていうぐく
なくとこ(ほん)のふもすぐろようるる(紫)おれぐうよも
ますようちまりてうけめるなりてうけず
まうまうばれうまうみばやくくめぐる
まうね

(尼)おひまむあうもまあ新筆ををう

すがのぞきたまふ。みるかれば
よくうたたねさて
（お伽云）くれ夢にかひ見もたるあまるいぞう
あのさんとすんとアゆう行くそうげあるる
（傍訓）ちうさてこるいあるくやはんぐ上もう
まおくまけうれこのうれひどのうる。
（ゲンジ）源氏のゆかのつくやまもたひこまれし給
けうぐいまちんさつを給ふいうどうこのび
給ふれどえうり給でぐるは給ちぐれど
らひまもまうでざりけるとのうまへあがいうど
やうくあやうさ海とんやうんうてずれ

（傍訓）おうこけこの世のうり給ひうる源氏ぐ引
はいぐまうてまうりまうんやうぐすてうう
はうしのうちまいうどうこの世のうれへまれ
ううひのづうへのれ（三ヶ）ある海なりいぐれをうてこ
笑むうてけをとすれば（ほ）へりのひめ（ほん）あれ
ちうへをうけうれうれうてうれすうさまれども
うぐうけりうをのうしてぐくうまぐうう人を
もけうる給ううまうる出うぐうくうび
のはうちすうをうううおうしうばすうても
けうけうけうりううぐうかなるへるうんうれ
人のれうりる明（あけ）れのうぐうめまもうぐやと

ちふしんちうつきあらちうつてゆくる僧都の御
で惟光（これみつ）をひいぞ寺（てら）ほどるぶ京なれば光（ひか）も
やがてさて始（はじめ）ぶぶりおりてまりけるこで今
ちん人ゆすおどろかれぐこつるあべさ法師る
ぐこれちこもり侍るとふ法師めしたぐ。
まびさせまへふとられくせひまへてるん。
八さのれむしろもれぐこてまりけ侍るべ
られいるはいちさくまるいめ十よ日乃（ほん）
はどちりやこまるぐひ侍をびさちり
てこへぐ侍れば人のこへのまくにまくり
まびいり侍つれとやうちうへのまるあは

きあとさうしちちうべさもぐたちうちいく
おりうちひのひつてこてちんいうこのび侍り
つるいまこちるまはまくのるまへ。すかうち僧都（そうづ）
まりまへ侍（はん）りしたなれどいと心ぐづく。
人ぐこもやんぐこるく世せられるへる人なれば
りぐくちされはりさ皮をりるるおばてく
うもれるはどのれもれぐこりなぐ実ましておるぐ
柴（ちぐ）のはりたれどずこすぐちき水のたぐれも
はちんぐさせんとちちるこさてしへぐ侍（はん）まるぐ
ある人へぐこぐしくちちいひこさせつる侍つまる
しうちばをとあくれたりつる侍りる庵をいぶ

うしてかうあげるいとこころよりて。
おなじ末葉(くさ)ともうへるまるさろ
なればやつとかこうどりやとまもどうろなぐまも
まいりうりそれをかもていとこそげるこりしひ
あるりそうどうさまれ心こうろうりいでやう
うのうそどまるひうちうるえのれをひうぜ
いくこなればうちのへぐもこづひすべうめり。
そうびられつるなうされぬ物侍(ぐうら)のうちのせのこなる
どうえうこせまふけ(ふん)がれつうれはぐいうそろう。
あげさなうさうる心をうあていうそうざうこれを
さひなやむべうさなうりまうてはのせのいうど

ううべうそかばしづでうそやうなうすまるせ
まはううえるまふまれうこひるの面(おも)げうろろ
はううて走(えい)れば(ふん)うまれしうまれ
れはううばねううそまるはしこさゆめとうそへ
しればふなんうひあうをいうこうさうてはへば
うちわうひてうはつけなうれ侍(ゆう)ばううそ物
なう弱(うれ)させはうてもれうろうとうりうせはめべし。
あ掃(こわ)寄(ぜちのぐ)大酒(おご)云ふうなくて久しく必伯めれば
えうろうしめうでうしうそれかのうるなんなうば
ぐいもううる侍(えづ)れあぐもちうれてはせをうむ
うさて侍(うぐ)ぐうれどうわづふうこうるうろうく

京まもまでねぐらこそもりて
もれしほたりと雨だれ大納言のぞむすえ
拙しまつりてまつへしはすさぐしきうち
よはあてはまやうよりゆうたりとあてる
のまへぐむすめしてひとりほうてこのすよ
幸まやたりほあんはだ故大納言いうちまてまい
らんなどうしうしいつきほうそれはいのごく
ももれしほうですぎほうばぐひあまごさ
ひとりもてあけうひほうはどいうたりへのし
ワざまう普賢の文なんをのびてうしひつうほう
ありけるもれおのくるあんごうくなどして

やすうあしとおほうてあけうれおをひてなん
なく侍りし拙やまひづく拙とめよちう
くまへしなどのおさばそれこなりうと
なしほうそれすぎまてれ人をも
うひうてうやといとあれまうあ
しく人の程もあてよりしう中くのさうら
ぬなくうちうてひて心のまうをへあし
うてうばやとおすす程あれ拙しうまふと
れそれはくめ給ううもなうおされり
つゆく湯のなをうしうまあしうてひ
まへばなくなりほうはどうてほうそれも

女もそでぞうれはつまもてしまれやひのまねしはな
んよりくひのすゑよりおもひまへなげきあはめると
ろてしあされば（保心）ばよりあはれさる（係詞）あやまちことなれ
どおさるるされうしろうるはすべく（笑）ゐて
んやふふ心ゆりてゆきさうでふるもゆりなぐ
世る心のままあるやあくんひとりずくそのこか
んまぐまげなさはぐうれの人よはしなずん
てぐくるくやなどのまへば（係詞）ぐうれくるべき
はるきぐとなるばまぐむいくけなきるはどよ
ゆのればくくれまてもゆくんしぐくるやそも
くゑく人よまてなきれこるあるくれまるなろ

結もれそれぐくいくいえとりとさぐれそべかの
くるくくひゆて笑（さき）くさんとすくくるいひ
てもれこくくさ後しのまへれば（係）ゆくされゆるくび
うくてえくくあれ結ぐあくぶ（係詞）佛（かなけ）まれし
結くるるすくくゆくくろるなんそやゆるぶつと
めゆくぐずずくてきみくんとそのぐくるのあ（係ん）笑
ゆくくもいくなやまくくるるすくくうくくくさ心
風ひやくくるあくくるるゆ（こき）のくぐみもまきりて（きき）
くくゆすくくれくるげなくるど結（こゆ）のくくぐす
ぐくくくゆくなどすぐくろなくひくまくくろくく
もれ衣（あえれ）なくまくてあまねしめぐくくくとあるね

そでおどろまれぬるぞやとひしりうども。扨
もいろうけるろうはるまもんのねあけそひしく
そていとまびされどずぐのけうそくはひさるる
さるくとはのさそくゲひうるちそよく
ととたひはてそたりとつまて行まるちる
れどるるそわてしる屏風(びやうぶ)の中とすてし
ひさあけてあふぎ式なしまへば(内女)なくるさ
るらすべあれど。さくしぬやうまとてね
さり出るひとあるりすうしたるそてあやしひが
みくやとそどるとさるのて。河(係汙)けのれたるべ
くるるつてもさるるふまどうたるものと

ホ十五

のるまふれこのいとわうあてなるる。(内女)うれいぞ
んうはづひもそびうれどいうなるるさのれ
たるべるはおばつるくとるるゆ。げ(係汙)ようちり
けなりとおばめるおくるんもくるなれど
くひるれわの紫(むら)のうへとうりるるり猿(さる)
ねの袖(そで)も寝(ね)ぞそうあとるるそてうまひてんや
さのくるまふ

内女房詞
ものしるしあさましうもりげなる
れはふしとしるしるべのびしるしやうなりて
しるしゆうなすんとどうひなすまへうとのまへで
尼
いりてさしるゆ　尼君詞　ほかいまあうこれまやよづいるる
ほどよなるすかとそなるすんさしるていかれ
わるしるばいどでしるいまへるうとどとしるぐ
あやしるしるもこぶれてひしるうなれで
なしるけなしとしるゆ
尼
まるしるゆうこしるひりれ家けしる成こやまの
こうけまるしるべどしるなんひどしるうおとしるて

（傍注）
ぢやうのはてなりれせうそくはまぎさこと
さそしちまぢなりしめぬことなんぐうでけるく
ともうついでまのんくしうさそしさす
べきことなんとさそしまれいたのまぢんひぐことき
さうまへるなりんといとくげりこされたくひは。
なるごとくはいくへさそしんとのまへぐしこと
なうまそなぢきくへで罪めげよりやうなう
ひとそうそまあまやるのまふうで
けなりておさうりまへりうちつをう
あさうなりくれんぢこれめべきついでなれど
ぶまはさもなぢし作くれで伝いとれげくとて。

（傍注）
おとれくちくぐけうけなりつまれて
くもえうち出まりぢけよひまへりぐこき
ついでまくまでのこ所をくさそすかも。
ひさくはいぐくのまふあくれまうけ作くれ
（傍注）
（第一冊）
（桐壺巻）
ぢりを所とれすぢさまひまけんれくりまぢし
ないてんやいふひなこ行のくこひまそむつま
くへさくへまもちとこれ作まれであやこう
うさくやうそて手月をそくれ作れおるで
所ままれし作なるとぐひまかせしまへと。
いくこそまれしこぢりおりもつりぐこそて
なんぢれんあをもくぐうぢうち出作りあら

とこたへて人々ぞうれうしうひまなへめぐる
ものしてこなたこなたにひかれてやすらひ
ゆくとつまもうちなんあやしさをひとり
とゝまれもゝ〳〵するに人なすれどいとまぶいつゝ
ひたすらほどそゝんしゆゝさうるも待
ぞくれどえなんうけまうもめれさう
けつとのゝぶれおばつゝみすぎまさる
ものばかりをうばしてうでひまを
うち海こなる心のほどをゆんぞとこたへて
ものへどいつまげたるこゝとさるもでのまゝ
なぐて心とけられいつへまるし僧都おこし

ホ十八

めれぶらうゝ冥てゝめ仏めればいとゝあり
うちなんとそゝそゝて結ひ曙ぐるゝ咲まれば法花
三昧をこなふぶうの儀法のゝ山おろしつき
ゝ冥くゝるいとゝくゝきれゝひぐさひう
ひすゝのゝとゝれ
ぶゝぐゝる袖めしけう山水ますあう心
さつぐさやいすゝみゝこれ仏ゝうやとゝこゝてゝ
明ゆくゝをいとゝいゝう霞ゝ山のとりかもゝこゝ
ゝこなくゝしぐりなひゝう岩も走ゝめ末葉の露
どもゝくゝはちまぐつとゝ武ゝけゝゝゝり

ほとゝぎすずこうりくもめづらしくこのまつは
なやまちさもまぎれてあひじりとうぢてきまえ
きねどやうくゝとてごろんまいりせはれらるゑ
のいとうすきひあるもあれはくうづゝて
ぢゝみうちはせへのくまいりてをこうり
めるゝろびこゝろ裏ちゝもはひあるを
そうげうるゝあゝ母のれうぶもなるゝと
まのそゝまでゆうぢいぢなこゝゝてまふ傍
ゝぢうのらひうゝ行てはとうまえ
まいりゆうまぢゝゝ呼くまもひのへうべゝ
うかけぢゝゝてまてぢはゝゝさまつう行山傍ふ

十九

うゝうゝまうゆめれど内ゆうはつなぢゝせ
まへふまうこゝればなんいまゝれのかり
すぢゝぢまいうゝん
係やへよゆゝゝうゝん山猫ぢゝうゝゝま
ゝゝまみうべくゝのまふれもてなこゝづひ
ゝへめもあやかうる
傍うぢんげのゝまもちうゝうゝてゝゝやゝ
猫ぢゝゝゝうつゝれど穴ゝへばゝるゝてゝゝ
けうてひゝゝびゝくゝなるうゝうゝるもれゝゝ
のまふひゝつゝれうゝけあいうる
をおゝ山の松のゝゝぢゝゝまれよのゝてまゝ

ぬくれのなをうられとうちうさてうてて。
まいりひじ王れ海もりよとこぞてまいる僧都
聖徳太子のうてうてうえをうけごえううじ
のずのう海のうぞくしうやどてそれくう
もりいれうてうれうてうめいうをすさうもうろ
よいれて父紫の扶よつけておんりのつぐせよ。
れうすりどもいれて花さうてすぎよつてさうら
よつけうれうてうもれどもさうぼうそまい
アたまう

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]ひとりうつめぐ程さつ[illegible]しの[illegible]
まうけのもれども海ぐまよりよはそしう
れいそれわりのやまぐけまでさらべこさ和とも
まひだず程などして出給ふらそしへのて
れさそして給しくまうびさそしのへかとも
かうもでいまいこさそしんうそまれそ給
ざしうくいば今四五年をすぐてそこそもうく
もくのへじさんとおれじ海のこあ成
はいなくはばすれをそうそこそしけのもくか
ふちいさきわくそしう
夕ぐれはのくふの色をそしてけさい船

のさうぞわづふ内也し

尼海とくや茶れあうにさうさうす
ゆう[illegible]の[illegible]文をもくんとうあてのにとなて
なうとうちすそいうまへり[illegible]車をそしる程
大変左衛門うげちともなくておつまにけうこと
それじくへのへぐ[illegible]逆なはるうの[illegible]
[illegible]中将左中弁さうあんぐうもそひ[illegible]そう
やうのれともいうまうう給んとはひまう
とあさまくとそうせのへうこと根そて
いくいうさ[illegible]のげうまわすぐ立
へうり給んいあうあわざれとのそいくそう

れの苔のうへよりなをわたりてゆくけまいりのうちに
水のうへなどかあるの澤のもとに山中ねぶかとうん
なりけり苗うり出てうるさすまうり弁の尼扇
をうちなびかしてとうの寄せうちなる
やとうちぶへうりいうとなりまんぶうちなるを源氏のう
をいつくうちなやうて岩ようりねうまへるは
ぐひうくゆうきれなりうを後ようぞなるとよう
もめうりうまどうりけう御のひうりうくずい
ぐんぐうのもとをせうすきれなどあり侍
ぐうんをうげうまてまりてこれて
ひとりあてだうてあれ山のとりあれ

どうーゆうんとどうまうまへぐうう侍
ぐうちいとうへぐうきもれとうまへど
けううぐうきなうてこれうまうひぬ
あぐうちいとうひうきうぐ
しなうぐをおうーあうりてうちまい年おい
ううあまぐうきうちなどうまううへのれあり
うぐをうぐうりうれぐうれせのまれうもあげし侍
うぐとううあうううげもあうれなまの
ちぐうりまてぐうれうぐをういとむけうーさ
日のまとのすぬのうまむまれぬへうんとうう
いとなむうーうとうてめとうのぐひ侍うのわ

ぞ、おなさかごろもめでうさ、人れとこのひて、文の代
りさ、ほりもまさりの人へ、れなどの名門女房さらば
れ人へのれこそ、ぬておりしませよとこゆれど
源氏うかづかさていとくうありなんとおぼしう
ひかあそびまも思いまも源氏のうことと
つうり出てこそのうなることあさせうづきの美い源
まげ門まいりのてひごろの代絵などゆ九しの。
門いとおとろへまくてゆくしとおぼし
めしうびしものうとうりけうなどとせ
うまふぐうしく美しく門へあぐりなどもあり源
ぐきもれまうてあれ源氏をなひのうういつりて。

おなやげまうろしめうれざりけうとくうとく
りの名をうり左大臣おとのまうあひまて頭中将
人まうくとひうれど、このびうろれありうれ
いりとひうでうりてたんのどやうり一二日
うちやすうこのへうてやどれをうつふまつて
んとりまへぐ源氏うもおぼうれどひうれてまう
でうまふげ頭中将車うのせうてまうりまうた
ぐういひういうりてうてまれうりまうてうづき
ううしまへる頭中将心ぐんへのあうれなうどぐ源氏うすぐる
心ぐうくおもゆしけう義よもおりしますんと
心づひしまて、人しくうまうあはどいうぐ

むのうてなるこどもさきはらひどもとけどもこの
ままへりぬ（菱）ぬれいのくいいうれてどみまもいぞ給
くあをとふぐ（左右）ぐらくるこそまてぐらうまてやうり
まへりぐるるくさうるもよくひめぎこのやうよ
ちすへられてうちうどろ給ともうくうゑ
つうてものしるまへぐ（源氏）ぬもふことうらうすめ
やまうちの物語（ものがたり）ともこそこんまいふうひあるとて
おうしうちうちいくへうもすぐこそけれるめ世
まゑしとけずうくこげうこもれまおもし
てどこのくなるるるへんてぐこそもの
くるをいくくうくしくゑ

ねなるれ（菱）ぐこそどうやしへぐうるげしひ伯
しこもいうぐとぐるとくせくまこそめげ
うくうあくなれどぐとうあくうと（菱）あ
ふうくしてくうあいうくもれまやあんく
ちりめくくをせまへるまみいくこげしげ
けるくうけくけるれくうちなりれ（源氏）くハ
あくまこのけくやくとけめいなぐいふくくく
くくけなれぶうくもの給なすかくまを
つくるくれまてなくぐしなくりり
もやくくうぬうぐぬくこゑゆくいくぐおも
けうくむなありうくやいのうくまくて

なのりをよへるあやめぐさ菱
わづらひをそこちなげきて
つきなきやあんれうをげまてるてとり
う世をなげしらぬくらこと
なひぞんはどのなくとゆ
ゆしそはまげるさはぐく
こえりしもとくりぞ
もあうるかいうるうまへて
とりてあけれのなぐさ
いとあてるなまあいまへれどまはひやるなども
あめをいぞうれ一ぞうまえてまうんひり
ときいぞくなれいまやなどはまはゆりいと
むつまくるいぞくうはもをゆのはをゆの日れ文
をまれまつれまへり信教まはのあうくまあべ
なまうへまはまてくたれうれたれぼく
まくるおまひまうくあはをもえあうくて分
らぼちうとなんぞうくゆるまてもをし
なべくあいぞしのはどをゆんじたばいる
うれうなどありなまちいくひくさ踏て
係なり
面りげハ毎ニもくたれず山猫心のくぐりとあ
てくくぶれまれ風もうあくくちんとえこ
はしてなどハくるまれうてぶくくをしつこを
まへくるあもぶくすぶくうれ発どまはめるあや

まこのもしうれはあかりいてあ(凡)
らんとおぼしまどふゆくてのぬしとなる(久行)
ぬるもおもひのへなきれしをりをへ海
つるをそしさをんくるるちんぎぶなまつぼを
ぶをぶぶくしうつげりくべぶあれいぶひるく
ちんざても

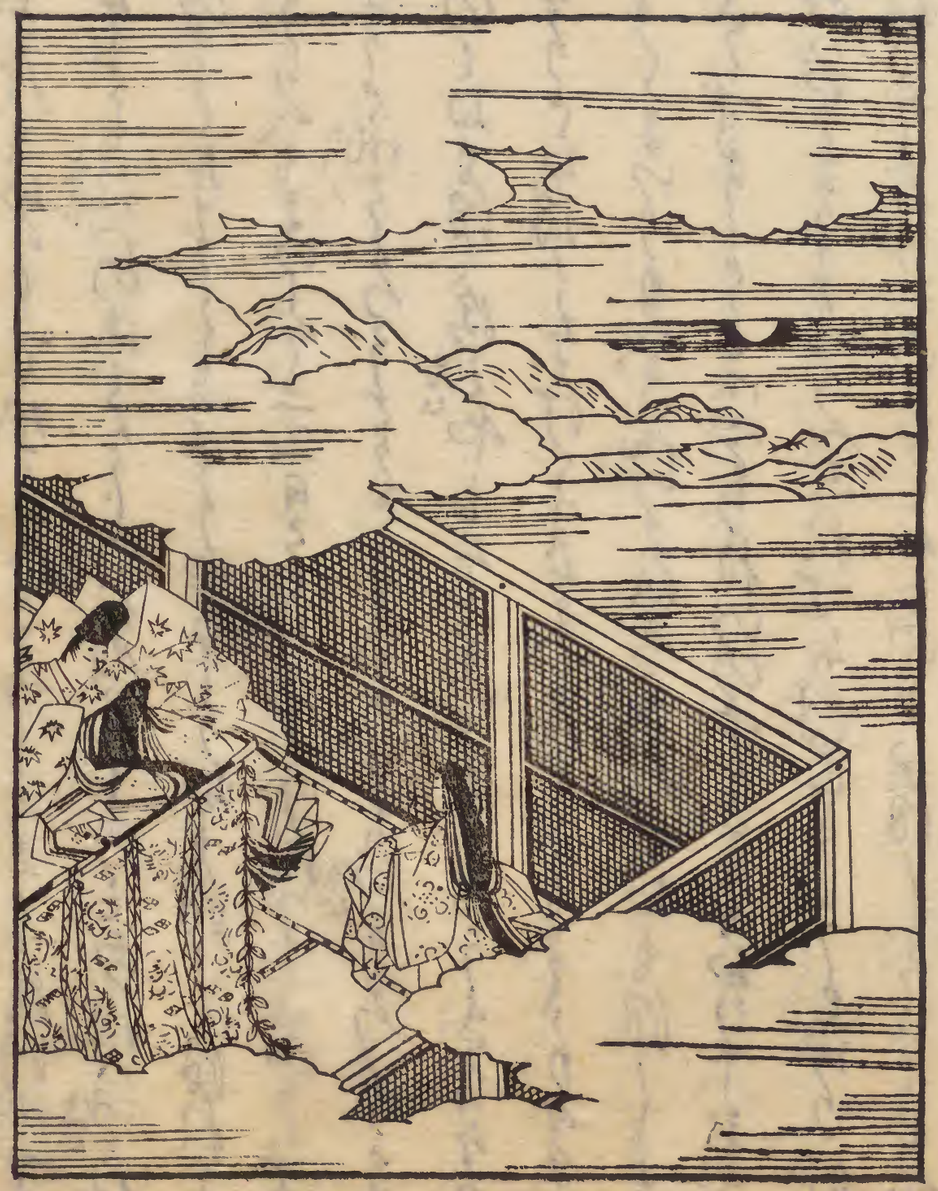
(凡)あしくおのへの猫(うち)めまをろをん
けるほどのつるるさいくぶうしるめうとあり。
さうばのれくへりもおるぶ海なれいぶ(係ん)ちおく
くて二三日ばりて猫光(れう)をぶてまつれるの(係行)お納云の
めのくいふ人あ屋しいうぶてくくしくく

(推光ん)ホニ十六
らへをどの絵をくまさもりくめる海ちるるれ心ろ
れはぶくいくけるげなりしけるひをまねるく
ねどもくしほどをおるひやるもおりしわぶくう
れはあくをぶ(ぶう)ぶもりくこまりくくてまお納云(せうるうん)
をうくくくてあひうくくうくおるしの絵さ
まおほるるのれはりを海なるるくるくばおやうり
へをてうぶくをういひつぶくれどいぶくまりるるさ(お納云行)
れはほどれいるおるばをまるゆくしうちん猫(れ)も
れもおるばしけるれるみくまいをねんぶろまよい
おてくれれくれちぶるるちんなばくへまねしき
くてれいの中なるる片

あさくら山あさくらを山のね
のうけそそりたんぜくへし
ぜくそそりあてくやしくそそりし山のねのあ
されたるやうげとそすべきされもなるべきと
とそそりたれわづらひのみとそそりくそれ
ぐろすべて京の命よりあひてなんそそり
さすべきそあるを心もとたりなるなるおぢうがの
そやなやそ給そほりてまるでなへうなへのね
はるるぐりなげき笑のきこれそしそもいくいな
わしそそりてまつたるぐうりありぐまと心も
あくぐれまぐひていづくのもくまるで給ひ内

うても望うてもひるハつぐくとなぐくてて
ふるれいはう命婦をあるありさまおいうさ
ぐうるけんぐわりたくそそりてまつるねど
さへうひとたねばめぐそびもうを文もある
まうりしとなばしまうぐるまもれ地ひ
なるばぐてぐるやそなんとうう笑るいや
ぐそていそぐされ家なるまれるなりて
ううそしげるさりてうしうけず心ふうそげう
しげるれまてなるなどのなを人るにさせあるあ
をなどるれめるうそぐるうまぐつる給いぐう
けんとうそうさへでねばさうたるぐと文笑

てしのみんぞふのみよやどりもとしまねし
げなれどあやまちうらどうあれてはさまし申ゐ
原
こてよもつあ和まれなり夢のうちるやぐて
まぐろる鄙分ともがれともむとへせのさ海も
さすがるいつぐれぐ
岩つや
せどうる人やつんぐひろうさ男
とうあ音なりてよなるしぐれうさ海
原
もいつぐくりまうぐけかし今夜の夢ぞれ
ちとちぐふうさあいめもてうう



オ十八

とれまゐりてなくなりぬ
なげくもれいのはらんとのこれあるべうれ
のこりなくもつくりおほしはれて
うらへもまつて三日ばかりかすれいまるいろ
まとれいろうどうもおそろしう
のこりなほ路やもなくとろうさなり
ろうばしなげくすやまもまきりのて
くまつりのべられつくひきれどおもはしも
しずまりまれやもりれいのやうもおりまさ
めいりすまりとへとれずおはとこもりけ
れべろうくいるんとのこりはしぐろあつ

こさはどいいぐおりさもあげりまるこ懐処
まへいとちるさりぐるくへぐこそまりとが
はるあさまるれすくれはどこしへいさひ
うあことれぐこれなまでこそを法ハさう
けうこくいぐろさつけはるひとけまハ
ちうはばはくこもあろれゆどれなど
まもちこうつうまつて行るのれ家文ども
ちくうちれるれめとぐれ弁命姫なぐぐ
あやしとへどうこいひあこすべこうけう
ねぐなれのぐれぐうけうれすくをとぐ命姫
しあさまことちふれはまけのま

ぶれまてどころまろ
うそ物さうしけて
いとゞ哀なかぐらなる
ひまなくもそらおそ
と降なり中将の
夕暮をこのてあくすもれとあてとりをかへ
とゝびなうえてもなけのすぐのことなりをそり
それなるまぶめはてしまをかへ
ことなん作といまづくえてどけから
のゆめはあず人のはことばかりはは
あまてまなくのまてろの

うちはいとなくとなんとなばーりまと
れ文のはことをひてまるやとと
なばしあをのいとくいとくと
の紫とはくをまくと金ぬとをと
ひくつのうりづりさまをてをまとと
べをなをしをるをひとをりのは
まをなをしをまをを七月まをりてを
まりのけめづしうあれていとくしさ
はるひのほどうををりすてりまりる
まをうちをやこかまやをへるをげあるも
なくめでうれいの明暮るるこのこおりほ

てはあそびもやうくおぼしさうなれば源氏乃
君もいとまをくめしまいらせてはしもえ
さぶらはぬ源ぐまつうらをもとめいとうとくつくる人など
志のびがたくて〻これもまかりなりく家を
さがすとしぐもとおぼしてでゝ
なりぬれやまぞこの人はふるしうあてそぶる
りう京のれすとうぢてとさぐのれせうそこ
なぐありおるでうはのこあるもこうなる
それはじろきあるとしてうまきかれとひる
とくなくて過秋の末つかたはもとろ
ばてなげきあはのおりさ東志のびる

所ゝうとうとうとしたひ志のあるとしぐれめりて
うちうちくおしする所へ六条京極わうて西
うちうれじすう行とをさちすうれうる
家のこぶちいくもれうてくぐらうしうけう
例のれとまうとうれめうれうれなん故物家の
大納云の家ゝ作り一日もれうとうひて
作りばれあまうへいうりのるれぐる
どもおぼすくなんとて作りとさこれど
あうれのしやとうふべうりけうれたどうれ
んとうれをざりいりてうまうとの
りへへ人いれてあかいをうやどくうちう

惟光

ゆへ、こくいちをふれだいてくれとまひ
よちんおりまするとゆへ、ふどろさていと
くくくいさとられこの日どろむけるいとく
のも　げるくなさせるひまられだれさいめん
などもはるまでとゆへどもうあしくてまた
ちんくかくうとてみなられひうひさてくろ
ひていれてまつぶとむつまげるはれどうて
ゆうとぶくまてなんゆてうなりなうまれみうきおま
し有よなんとゆ右げまうる所はれはまぶひて
ちびうつねまひゆへうちなくなひなさうは
まのこもてなさせ結ゆてくまれはてなんなもも色

はしとともくとともうけしうまゆうさりけうおばは
なさなどくさうこのふぶりぶりこちはいけともなく
のくくべるかぶりのう所まなりはてゆとうてけ
なくうちうせまへるまくげうえ笑うまあくく
のはうみまうくとのすぶうとあうはのはしめり
くうくあやはゆくばくわうなさまくひまぶはて
うなうぶうずまへうせうまへいうぶくはばそげる
くまへとくなんまぶひはうくのはぶまは思うまん
られめべくなどゆえくまゆうはうれぶくうる
ばそけるうれうまくうくうくうくうとうとうけ
なうさわぶまははれこのまんぶまうこまりも笑

ゆひけべさうどたちまちぶとのゆふのくれは
ちこゆてたゆふあさくさひはんだこゆくう
すさぐもさまとしてまつんいうする蛾
ちうてまつうてめうのうちに長ひさこゆちも
あやこうさまでひせのくまはあしはるめるど
のゆてくへたうさ心ちのこしはとれいくけうう
もれしうまれひとうこいでうとのまへいぐる
やうびおまはしうあさ海はものごもり
いうてなどゆうおうりもあるうちうどと
してうへてうれ寺まうけうしげうの思こて
おりうまれなぐうはあとのまとへぐいと

うるういうとやひて行かうまとこさうもいさこ
しうべ心ちのあうさなぐさあうとのまうしうば
ぞうとううとうるうこうとうばうそのう
まういとおうとうとうまへぐのうるうと思ひ
れぐうあやうてまやうれとうひを
ううとうとまのてうりまひばげいうひなのう
うひやうりとういとうようとうへてんとうばすの
はもいとまやうるとうひううとはのちい
うくて
いとけなうさうげのひとうるうさうしうり
しまうなすづむあぞうえなうあるぐへまとうと

きうおさるくうきたうしまへるもいらどうおうしげ
たれがやどてけんぼんまと人ぐ写也が納会ぞ写し
ろうとうきうせまへるたうたうに紙もすぐーぐるげたを
歯まそ山でうまりうまりわうる祝まそうとうたる
まへるうしこまりにうれ世たうでもうそうさせん
とりうりいとく表と学校秋の夕とまーて心のいとまか
くのこ学しく乱うく人のけあうう心をけてあがちる
分ゆりも影ひまねしうる心もまうり給なるべし
きんんうたうたうとなりしゆべおがしし
いでられてひしくもまる。こぶをとりやもんと。
うすだるあやうし

水三十四

でよつうていひしうもうんひうさうさ乃
絲ようひ行ゆ過べの若葉

十月の末薄暮の月華あるべしまひんなどや
やんごとなき家のことども上達部殿上人など
なども参れるまつさぐしきはられえ
をまゐれどこころもだにとりてどり
どりのざしどもなそひまたまたふさびと
まひうとうとづれ所ばかりけるとおぼし
出てふりくへつるくうれべそうげのあまも
のこりふちめる月のはどなんはぬ
をなすくるまへなすてをけんのざうつとなれ
どうるひとのふなどあるべ成ミるる世中乃
くらなるさも哀ようしろめるべげるべくへ

いうなりんおされさぼるとひやすんごとやす雷
とれしてまいりしなどそろぐぐしうしほど
さひいでぐあさうずとうひまへりお納をゆへ
なうしずれうりなどそそしりいこなどすぐて
糸のとのなんとそうへばどへてらげうらの
どうなる和おりしりいてすぐけるあれうる前の
人ずくなうるいうおるさるるさへおそろしうん
とうれいの所よいれるてまりてお納を沖
ゆりう後などうちなうそうしけぐうるあい
なうれ紬もうぐなうずえよわうしてまうんと
ゆうれこひめぐみのいてなうけるくうきめる

おひうそうすりしいてむげるちぐなうれ
ようひのまぐうぐしうへのおもむけをもん
ちう治うずなすぐぐなうれはどうそあるうもん
治なう中れおかつうちうへまてやまドア治ん
なぐすぐ治めうもよとれるおしなげうる
ちううさうとおくゆるようくうけううさなげのれ
しとの紫ちのれうるもどり光せずいと
うれしううさひのへれめべきおりうしう作り
なぐすうしもなずうひなう海よもあしう海
びれうしうもわうびてなうひうまんれでいと
かるけしいうく作とうる面なふりかうしうへし

きてしたしむ心のほどをつくしまつりたんその
いふひなきれたりさ海のあられぶゆーう雲
うまつしも（ちぎ）ちりしとなんこころなげきひさ
れけるれ（をを）人へばてなくでくさてしたせだや
あーわれ（係）波（うう）あいくくともこくこちち
るぐくへる波（なこ）はめぐまりうんとのまへばげる（かれ云行）
ていとくこれとて
よるなこの（お物云）心もてでわれ海（うう）よまもる
びんぼうそうさくるりなきこくこゆり
さ海のなれるるすくつゆゆ（係）れなでな
しぐんとうちすぐまへるとまこてわくさ

人ぐおまへり（紫）ぐいうへを（尼）しひくてしのてなくる
みまへるれのそびぐくさどものなをくくる
人のおくすぐ家（あるこ）のおくくまなりと（ここ）ぞゆれば（紫）ば
きいでのてお（汁）納てよなぼくくりつんこぐ
らくやのおくすくくとてくりかくくれ五いと
らくくく家（汁）まあれどよかもほいなくべう
もあずくちくのまとび（紫）げくくくへくすす
ぐくくなてのくいひてぐくくぼくて
めのくくくくりていぐくくまくくのの
ぐいまくくなぐまびのくんこおひぐれうへり
けくのぐれよいまくくくへくくのまへば

ホ三十七

めれとのされば　そうづあれば　ほどまてなん
そてそしらせそまつ　うれば　なぶる　心まるくね
まへるまてとそいれ　てさぐりまへれば　なまく
うるれそまうこいつやく　くとうりてすあのふさ
やうまさぐりつけれと　うるほどいとうひてう
とひやうてとうへまへ　れば　ゆうて　例なるあ
人のくらづさまへる　いあそうして　なんと
ゆまをとそこのびて　ひさいりのまつそて
すべりいりて　いまはまろそおまへべさへなうと
まひそとの　なめれといそ　なからうそやゆそう
もはうれそさそしさせそ　ほとまさるなるか

そうしも　はうしおそ　そうげまひれば
ゆうもうろ　ほどといぐしあうんなれしぐ
うまそあ心ざしのはど　そうそうまへとのまま
あれうはれてすぐさまなるいぞう
人ずくなる心ばそくて　すぐ　なんとうちかい
まていとうすてぐさ　ねれば　こうしまいり
ひまれおそろしされの　海なあるとまの井ぐへ
まそはうん人ぐちうう　れようとそいと
けれがはるみ　ちのうち　うるうさいぐさていりまへど
あやそうおまひのはうま　あるまれてれもく
おうりめれとそうろう　わうなうとそへど

あまもうちうちしさくべきなりねばうちなげ
きけるもうちわくぶんいとおそろしういうるんと
わるくれていとうけてきれそぐつきもそろ
きむげるなばしうるれらうしくなばしるびとん
ぐりをもうくてわがれそちもいうさて
なばしまんど衣あれまうちうるひまて いざまんよ
おうちうちなどおなくひかりそびなどする所
と心はばくべきことをの給けくひのいくなりか
しうちおされきうちまもいくうもをぢず
さすがむいうねもいくばなばしてうどろき
ゆうまんう夜地ひとよ風ちきあくまげまうた

うちをぢうまうばいうるこうろばそうまうまうおれ
じくいうろうきうるおりまきまうびくさくめ
きうへうりめれうばうきうろめうさるいうちうきう
風すううふうやううるゆういぞのまう
しうありがなりやいうど衣ようそまうれあり
海を今いまうてうる時のまなばつるうべし
あけうれなどんうべる所ところうてうてまうん
くうてのうはいうどもれうをぢうしうる面ぐざうう
とのの人へどの文もれ世ううへうなどつ君ぐ治めれど
うれれ四十九日すぐうてやなどゆひまうるうとこと
ゆきべうれもううすぢうなぢうもうそくまうてか

らひまくるハおなじうたうたうそうあつめ
ようらてまれどあさうあ心ざしいまきりぬべ
くなんとてかいなでつうりこがらまて出るひめ
いとこうさりわれうそうもぐなりめよこまい
いところうをそてまとのけうもおうし
うりめべうるさうぐくしうおもひおくすいとこ
のびてうもひ路さうるのこちうりけるをおば
しいでくうどうちしうそうせまへどこそつうる人
なりびなくてれとともはあるへして
うこそ侍
あさぼらけうそうのまひまも

めすぐうさいあがぐれとみるぐううひ
うるまうどうこうるしもづひを出して
うさのうまりうこうのまうぐうくい
うるいうり如

まうしたまへるもなさけなくれどあ
けゆくそらもとしるくて源とのへおりぬおりう
ちつるへのなごりもひしくひとりあるつゆ
さまへりぬるこころおもひのごとりあるてやり
まるようくべきことのくもれいなすれぬぶでうちき
つすきひねもすへりなくうきあるなどをやとまふ
うちるようふしも変わるうきりまへうどろ
ちもこよなうあれまるうひろうもれりる霜
のいとぐへずくなるようびしくれぐこわうきて。
何ころ前ろ良いぐでうたぐしもおさわるきへのすぐ
しなるんなをうるわるうそきうてん。

なるの所をさはぐもあるべしとはさうじ
などさてさつしひなんまいわるき人ぶなどあれど
もつともあそびていとようもれ給なんなど
のまふちうまびとせてまつりまつるうの所
うつり香のいとゆうえんなるまうとりまへれど
なりしの所をほひやはだでいとなべてとろ給
ぐまげなるばいとりどもあげもくさぐ
すぎまへる人よりそひまへるより時どうしてる
わつりてどもなりまへなどもれきをあや
しう字どもまして人へもとろとくりしとうう
なりまへも抱し給ちんも心ぐるうなどかまへ

お物忌
なるはとろとろばそくとも老どしておりて
まちなんずるものく心あるもはまりなんまる
らせ給ちんとそうくハ侍べれとうあうう
ひるこひとそしまつるまどとろとうきもれもきそう
あさずてげいというなるやをまの所れどいと
あてまうりくくなりくこうあなるまうも
なばすいまはうまなるきの人のれこと者うひなり
とのれあれどなどうこうひまてまてうれど
らせまつばいと心ばそしとあるひてないまへ
者やもうちなるまていとうう心ひなりまそ
ふあまわるしてまつんなど者こうらへを

きて出のあなぐりもちぐさあげくうなるぬの
へりゆくさきに男のあんとなぐまでもなば
しるべぐぐぐぐ（ぐぐぐぐ）ちるるまりなうまり
くなるひて今いなきをかまひるけるとお
ばすぐいぐるるおさるるきれこちなれどむひ
ほとるぐりてれいのやうもあそび給ひぶひる
きさてよぐぐるるぐ（給）とタぐれとなれぐいぐ
ぐうくるるへぐうくてはいぐうすぐ（給）
そんとなぐきあるびてめれともなきあへり
（深）まんのれもとういられをくてまつれの
うまつうくべきをうちうあれどなん心

ぐうくうくるるてまつうくしるぐれ心なくくるてるの
ぬべくてまつれるへうあ（お）ぐ（紙）ちきなうもあるぐ（な）ぐくし
れるてもものぐぐめるれれくるぐ（参）ぐくう
ぐうくけぐきるふへぐぐのるうなるうぐきるま
れんあかりこものくつめぐるいくけなくうち
いぐくくくきるるるふなるどいるもそれ（紫）といなる
くるるぐるるくるるあぐるうきるやお納ていこれ
れは（あれ）きなる物（ぐう）程どもてありへそのうちやう
べきれすくきれぐ程くるるくるあやうもあんん
くぐいるれけてるいくるるげるきれくくくくて
まつるくあやきうあぐるの給ぐるもいうなる

れば心ようなまひとうとなうこぞれ作りそふる文
わすれせのひてうしろやすくつうまつれ心おき
なくまてなしそこそあるなどの給はせつるまゝと
わづらうぶなるこゝろいうこゝろはすることもせひ
出れそぐりつるなどいひてこれ人もとありて
がうも思給そんなどあいなくれいつこうなげう
しげるもいひなそぎいつもいそまることふうあ
うんとやこうこうふまいりてありさ海などぞ
れぞあそれるなばしやうれどそこうひ海
そんまさすぐるすぐろなる心ちしてうぐしう
まそひあろうとうんもやはりうんなどつ

ようれぞぶむうんとなまそれあこは
まびくこそまつれのふぐるれば例のふをぞ
まそまつれのふさこうこうもれありてえまいり
こあをどろうやなどなりぞやうりのすまいうる
れむうまのなせこうつれどこうあこう
こうてなんどうどろのうまぞふをうれうんまこう
げる心ばこうさこうふんぐもひこぐれてとこと
ずこうるいひておくあいうらこぞ地めひいと
るむけこひなどこうつればまいりめこそいかある
おうけつるれいのかこうとこそうもこいめんうしる
くぞまれむつくくぞこうまをすぐこて

ひいらぎの花をさしてつれといふ人をこゝ
ろなる所をさしてすきびおもしろ
きもてなりさる所をひ給ふ（惟光）まいりくるなんとさこゆれど
（源氏）くちおしうなげしてゐたれ（者）ど家よりはうなるなげわぶ
むこへいぞんもすきぐしうるべし。おさるさ人
をめすをいぞこゝろとまどさあひなんそのさゝる
ものなげ（惟）けなくてたちあ（源氏）ぬさゝたいるせまし。
てあるさうこゝるものもきんゝる所のさうぞく
さなどゝずいぞんひとりふるはをさゝれと
のなげ（惟）けなくてたちあ（源氏）ぬさゝたいるせまし。
ゝゝありてすきゝやうなるべきとゝへの

なげ（源氏）おをさひとりゝのゝ心ゝゝけゝゝゝ
ゝられめぐくはれるなりらゝゝやのゝゝれ
いでまへんもりるゝゝずゝろるべきとゝ
（源氏）笑しゝゝゝれどゝてゝけしてんいてゝゝろ
りるべゝれぶるぶ（そなた）出給ふ（葵）君れい乃
ちぶくは心もゝけずまれし給ふ（源氏）ゝるいてゝゝち
ゝゝるべきゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん
立（たち）りまいりゝゝんゝて出るへぶゝゝゝゝゝ人ゝ
もゝゝゝりゝりゝけゝれるゝゝゝゝれなゝゝなどい
ゝてまりるゝれゝりゝりゝと馬（ひま）のゝゝておりゝぬ
門（ど）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はれ車をやをらひきいれさせてらふつまどを
なりてさはぶけばお納てさりてさりて出させう
（惟光）
うるおりてまとゐへぐおさるるきんへくれとの
ごりてなんなどうけとれわうちいでさせ
まへくるく地のぬりとおりてひていふ（源氏）めへわうせ
まべうなるとそれさそまれ一くさてさせを
えんてなんとのまへいおなのまへいおなのまへいおな

なればまことにさぞうらべられだんひとりま
いれようとのまへばそろあくしきしく
て[紫]ふいとびんなくなんはべさ[紫]愛のわさせ
給えんはいと面よりさてやらんとそれば
ほどへてうらべさまおりしまさばともうもはり
なんをいとおもひやりなさはどのようはれば
さつふんべさうはうはべしとさてゆきばは[源氏]
のらまも人いまいりなんうとて[紫]車ゆきさわ
まへどあさまういと面ようとさひあんりわり[紫]
ぞもあやさくおばしてなないさまふお泊てれで
どもひきさげてこげうもろさ衣さうへて

のりめ二条院さちうればまぶあうなるあ[紫]は
おくしてうしのるいはれさる面ようとおりまふ
わ[紫]ぶんをばいとうさうはう[源氏]さいづさておりまふ
が泊てなをいと夢のさちしいはべうをいる
し侍べさとおうとてやすへで[源氏]ぞはこころ
なり[紫]ぶづこはわうしさてまりつれでうり
なんとあくばとうをんうしとの給ふひて
おりめ[紫]ぶるあさまういむひもはべうるず愛
のおばしの給ふむしといる[紫]なてもべされあり
さ面おうとてもくてもうれまさんべはとれ
まるがいうどさとよ同のとぐまあをす

ぶゆゝしくれどゆんじねうぶるいすと
ゝあるさいたれば拙なども なりぶれ
めてれ拙れ屏風などあるうくもそそもの
れ事のるびゝひさおろゝおまなどびさ
てろふぐろうてあれぐひんぐのふいれ
とのねもめまつつておねもれごもりめ
ゝ紫ゝいゝむくつけゝいるすうとなんと
おろくれまへどすぐまこゝねえなさ結
くずが紙ゝが海よねんとのふこゝいとわゝ
いまいさけおねとれごもちもぐさぞもへ
ゝゝめへべゝてもびしくてなゝみてめるめ

本四十八

ゝたうもおれずもれもおぐずるさねうゝ
あ宵ゆくまゝまゝるをぐ・おぐのつりざま
ゝつひざ後ちもいくず・夜のすかごもまゝ
うれまんやうまゝてうやくうちすうゝ
りるくおもひわれどぐうるゝ月なども
ゝまゝいざりくりうゝさまらうとなどのまゝ
おりりのるなりればおゝこどもづうゝ乃
とるりけりぐ円去へむくへのつりゝくへされ
なんおぐろけはいあぐどゝくめくれてうけ
れうゆなどゝるゝまいる日たうねおさまひて
へなくてあゝあるゝうるべさへぐゆゝけて

そいむ人を始めとの給て面白き事
ゆゑよつゝ今はいさゝかうざりつゝそまいれ
とありられどいとおつしげなて四人まつりつり
紫式部はそれぞれまもくれてしみのへるを侍るれ
うてゆうこゝろうくかおかせそすぐろなるひと
くうゝくありなんやあい心やこゝるなんよさき
など今よりとへ笑給れるちいさしるれて
うゝうもいとうどうこゝなりけりうち
うこひつおりき絵あそびものもとりまれり
りてこせこゝまつりれこゝろるつべきことど
とゝのやうく紫おきみてこゝ給てまび殿乃
こ殿やうなるぶうちなんへうもどこゝて給なるろ
なくうちゐこゝなどゝてゐ給へるがいとうけう
こゝるれもうちゐまれてこゝるふひんげのさいる
やうりのへるる紫立出てくよ月のまぢち池のるぐ
のぞこゝまへいこゝまれのお殿ゐるけうやうる
おもこゝろてみもこゝあ四位又位こゝまぐるひま
なうういでいりつげるおうこゝ所うるくおばは
れ屏風どもなどいとおうこゝ所ゐこゝゐるぐさあ
ておはするもこゝるやあ紫い二三日間へもまいる
めこゝでこれひとゝなこゝけうこゝひこゝて給やうて
はんるまもおばするやてなこゝひゐなどこ面ぐる

うちうちをうてまつり給いそぎうおうしげま
うきあひめのまつりゆきとこれめと
ひしきをれうちをよいきまへるすきつきれいとこと
なるとをりてこねまつりすこしちいさくて
ひいこねどあくれとそおまふむさこの高る
身わづら革のゆりまとありいでそそもこもい
まへとなれどおぼすようぶとそこをのげ蜂ぶが
なるごろなくこひてしげをれがうちはくあそて
ようこねどむげるうぬこそわるれどしへこそを
えんうとのまへうちそばこそいまふて
つきうでとりまへるこ海のおこれげるもうう

こうのこおばゆ往だころなどあやしと
おもはる紫式部こそひはとこだそこまま
と走おてこまへだ
紫式部をあこればつれいる
かこきのゆりなこんとはとわれどおいさ
こそこそこうよいまり

源
こあまごろみまごろもうけりけるよめりしさるに
なりしとぞいとものうらいしるひてんとときこまふ
ひみあくどやどもつりてげてもろ
まあそびつごしたなさもれおもひのまごろへ
しなりうれとものしんぐ文やうり給て
まごろこそこそ給けるよそそやうんうなく
てぞもびあへりけるしぐしんへまこせどと
源氏ものひお細云もふふなればもちまろ
ぐめやりつごゆくももまるお細云がおて
こそこそしるものこそこそするまこやも
いふひなうれしてごのまんもうこるつり

治えんとおぼしてもれしとおぼしてうしと
なればめとのいとうとしすごしてうしろめたう心ぐるせのあ
まりおいてうるわさんをびんるなどいとそて
心まもるもてみてくちつくりつたなりとなく
なくうりのめもとうでそてまつばつげ
よとの給もとづつく傍輩のれ海まもるの
そそしのへどあとくちるくてあうつりー
れうちなどしひとくれるとおぼす後のる
もとくぞとすてとせひ笑のけう心もうきて
わが心よりせはべうおるほしけるようびひ
めうとどちおううおぼしうりやくくまつり

あつまりめれあそびがうとうべちごども
いとめづらいまりうきれなりる所がなれど
おもふことなくてあそびあり若い人ここのこの
おそそばなどてさうぐたうさ夕暮などゆり
ぞあまどんとしひそそしてうちうるさなど
しのへどうとばうとよせひてそそしあそばまと
りうきなしひ笑し治えでなしひのれば今いで
これのちのおやをいうどうむつびまつり笑し治
把ようおはすれいまげいで紫ようるる
らひれとうろよりあていうとくそび
うとせひうそばうるるよいうどうらうるる

わざなりろう。さらぶんぶ（ほん紫とあそびくらべまきあつまとき）ありなるよこれとむけう
しさすぐるなりめれば。わが心ちもすることぶ
ゆしも出るやと心さそれ。人もうしろぐらはさひの
かのことものぐ〜出るほいとおろしさまて
あそびなりむすめなどうるぐるはなりめれ
しろろやすくうらみるまひべてなるさ海
まおさゆしなどいえしもすまぐ海これも
いと海うろうるうしづきろきなりとた
ばるめり

源氏十七ゑうり十八ゑの巻まで生源ん　すエツ六十八

思へどもなをなりぐりしたがの劉はそれ…
程の心ちやう月れどは
しろもうちうけぬうぐりのうるさぐ心みる
るのれいどもしさるけぐりくなりうしう
りれるゑ物なう恵まくなるまいうる
ゑくもうさ笑ていなくいとらうげなん人の
つもうろくなうんうきれとうり
ずまるおばしわれぐずうゆへづきて罪ゆり
なりはれうくもりめくあ海なるるさて
もやとおばしまるぐりのけうひあるあうは
しそいびとうぐりともはのあうまめるかて。

なびきそそしずまりてくなれるハおきくあ
まりそでいとめられるやうれるを心づくさハ
さそへなすう情をそくまあやくさなどあまた
もなくほどもなくめやうまさてもすづそそず
なぐさもあれバのまひさつくおはうりげて
れを蜂をまくおりくまたひうばしげ
嵐の紫もさうめべそ風のつるうりあるさいおどろ
うまのおりもあるべしかくげのそれうし
風ハまるさやうまてもそくもはたくおばすたる
名残なすらも和ひれをぞえて結ぶりけ左衛門の

めれどそて大気のおもれさつぐるおばいるる
がむすめ大輔の命婦とそて（四裏）うちまさふる梅わの
ひどとりの兵アの大輔たるがむすあなりくいと
つうう色これめうけ人みてつりけうと思もめ
つうひなぐしのふぐくろ紙前守のめまてぐぐり
まけうこれいちくんのもとそくて行うふこひる
ちのみこのすもうけていそぐうしづる結し
内侍ところほそくそのうりあ結るとこのつるで
まううそそくれバあくれのしやとそひさ
まふ心ぐへうちなぐみうるいえうりそぐず
うハひそあひとうもまへばさ

ちひさき地ごまでぞうしひ作りさんとぞろ
うしろうしひべとなまへるとゆきべ（原汁）琴詩酒と
まてゆまひとくさやうてあらんとて我は字やさよ
ちくみこのさやうのうしろうしづきてあれ
給れどもしなべてのまづひまはあらどと
やふとうしひ給さやうさてめぐりまは
作しずやあんといへいこう（原汁）家びまし（けしき）やてい
ぢの鵬月（あがつ）和はたのびてあれをんまでなとい
しまへいづくしとく（金沢文庫）おもはまへどうちわうもの
どやうすうしひつれぐまはまでぬ（地）たの大（埋）
のうしひはうまですこけうこみは（本つむの方へ）ぞ

うしひけう（金沢文庫）はまくくのあうりはすこもはか
ず人（おつむ）めぐのれあうりをむつびてこまくうあ
の給しもたうくいぐうしひのかおうこはどう
おうこういう（金沢文庫）うこいうこわざうれものまず
むべきあのうあはもはうざあうまうこゆれど
なあるまわうりてびひうこまはう
うこうこむなくくんん心ぬうりべきをと
のまへぐうちけうすうすへ（そち）なりて（金沢文庫）うこう
うこうこけなとうへどんでんまはう
れぐまぐうこうまうれぐ梅（ひめ）のかおうこ成
きぐまてれしまうまうこうこうこ成

ことの和いるまさりたるんととひさまへてとゐく
まれけくひはさてそれ給りてなん心あはさて
しきいでへはえうけさまもあてそちかし
れとゝへおぼ(那)れ(きイ)さうへはなれまくしてる
りふへのさくぐりやいとてめ(翠と)しすはあい(金地)
なういぐさく給さんとむつ(清)のさるる
なくしまふおうしうゆ(きこ)なる(源)ぐりみさて
なれぐまのれぐこのすぐさとなる拙なれ学
まくもおばれず(地)ぐいくうあれわりてさび
しきあはさだりの人のしめるめしうどころく
しづくすへくりけんなおなくふくはあしし

のこるとなくんやうのあはさてそ(ひりあぐり)学物語
まもあれなくぐもなりれなどさひで
くてまれやいひくまとおばをどうけ
けるやおばさんとそろぐりくそやす
ひくまふ

今姫とあつもれて。いろうこそなくさせなるらん
とさひそれだ。くもりがち。仮名付
ゆりつゐとひがかもして。今心のどかるとこうし
きまり。なんとそいろうもそぐのっさでうれば
仮名付
なるうくなる程よてもやこめうれもれ字わく程
ともあらでねさうとのまうこのまうこ地けしさ
仮名付
まなるどくちうこ。ちうこ程どれくそひうちぐてせ
させうとのまへど。こうろ仮名付
ちうなる有程ようひうこてこうろどうしげる
もれしまふめうとうしうあうさ海まやと
仮名付
へだ。ばるさもあうこと。紙ようれと人うちとけて

ふだんさへのさはりとてあれなど衣
はなばなしき人の中ばかりなれば花やかなるのみをこそ
世のあるがままとこそひのふまる樂しきやうなるやあ
らんいとさのびてうちまゐうへのまえにて
はしまいすとよてなやかなるこせのふこて
おりうさふまへくるおりくはれやうのれ
やれ海といでくハやらんしたけんとこそ
れべきちうちわくひてとんへのいとんやう
よとがれあらはされそこれをあぶくちきあ
まひといでのあの方ばかりうんとのくまへば
ひまりいろめつくりとはびたて物くうのあを

そびけりとさひて拍子ばとんでんのるて
人のけそひきくやうやとえてやそこちち
いでまゐずいのぶすこおれのこりこうく
れのくるる立ちりのまくこりこうる男みあ
こりあれなるん心けこるすきまれありりとは
きてげこつきてこれのへど歌中れなり
こりばタつこうちこりまるまるでまけを
やどて大義まるまるず二番院まるなくで別
まけるといづちなんとこぶなくでかれもひく
あれど泊まつきてうぶひりあやきさ馬ま
りぶあすぐこのないぶころまてきれぶこり

めくるあさすがのようすとうるのようひめれば心色
えすがたひけの程ものねるさつてそてるようり
やはるふとるるまいたりりり。（源）れ
そで我とたれどもめるそ行しあゆきのさのする。
（詠）さりており拾（そ）さをあ入つてそれとりつまりつて
（詠）きろとまる大うちゆきいでつれどいるる
ちをあいざようひのねとうしゆまるまるれど。（源）ゆ
とこのるずてーなりうなりめ人のさひらら
めくくとまるむく
（源）さとわあうげをばそれどりあのいるさの
やまれるびめる

[illegible]
[illegible]おとしやうのれあり[illegible]
[illegible]もあるべれとてさせ
給つでこてあるやつれまりられけりぐ
[illegible]とも[illegible]なんと[illegible]
まりうのこつけらとおぼせ
どれなでしるえこのひとこ
[illegible]ろのちるおぼしいげとれく鍬
わるもあまえてえゆきわれ給ぶひ
[illegible]車よのりて月のおりこほどる雲ぐれ
[illegible]程おくふきあるて大変はかりな

[illegible]
[illegible]ぶのびいりてひと
あらうれなとめてこえ給ふれるう
いまるやうまてれ笛どもあるさそひる
おくすれぶおぐれいのこさすぐ給ぐ面
笛とり出すへりいとよばずりおとすれぐひと
おもろうあきまふれこと先てうちも
これるるるるるるるへるひをすふ中將の
菱の兄女こ
ぐぐとびくひげど歌のえるるけるを
もそれれてどこ原ますなるれるこの
ケりうるとびえるむなるるをれげる
これなくて大変菱の兵母などもろしるぶし

なりぬれば地おもてくいつくるさこそ
すさまじげなれどうちとけてでこそ
なれもなんもさすがに心ばせくおもひこゝろ
ゝ（源氏）ゝかりつる琴（きん）のねをかばかりいとあは
ぬつすまのあまなどもやうゞべるおうこう
ひつゞけあつまりしぶとるいとおうらうさ
人のさてをきてどうこれおろうんとさこそめて
いうゞうろうろゞうしらべうへもてさはゞか
ゞりやけが心もさあはあしうんなどさへ中ねし
ひろうごれ（源氏）ゝのうまのうまのけしきなどをけりこそ語をまさる
ゝていすゞしまひてんやとなるまゝうあやう

ゞうろうそのうちうるうるうる

まけうとやとゆくえもしれていさうんとうもおも
ふるものゝみうとしまるものといへんをとへんをさて
けうとくひうとうとおこさうとはいうとうしもいうあとの
うとなうけなうとをとそうとゆうとゆうとゆ

わすれぞのの[illegible]（義栄の時）やうにわづらひしまひ（なつか）ゝ去
れめもれぬこひのまぎれもれぬ心のいろ海なるやう
にて雲霧（くもきり）まぎれ秋の[illegible]（原汁）ひまげうるばかりつゞけ
てなれ（クタレ）ぬるあらの苦（くる）しきまでつきて空（そら）くるしく
さへこひたりなげし世（よ）のうちのさま
まにたぐ空（そら）のへどをおばつるるのこあれ
どよづもて心やまにうまるていやまづれれろ
さへうひて金魚とあるふいろ（原汁）やうぞいとく
かこしてまぎたれとやもれたを思ひて
のへべ（金魚）おかしとこひてまてくるれてるげるさ
れこくもおもひけ[illegible]（原汁）ばぐたるさのれものけ

（十一）

ゝれりなるゝ[illegible]（原汁）とえゝ出ゝ海くあゝなん
ゝまふるく空（そら）ゆ秋（原汁）ぶれゝそいゝげあゝとか
れもれおもひしふまどさほどひとりをえ空
まゝあ行ゝてさやゝうやゝこゝるゝとゝり
なれなゝぶゝもこひたゝげまりのへゝんとおもる
ゝてゝこゝいゝとなくつれぐゝまゝろゝぼゝうのゝ
おぼゆゝるとおなゝどゝろゝいゝへゝるゝんはれひ
るゝうゝ心ちなんまべゝるゝなゝやゝとゝげけゝすぐ
なゝてゝそれあれゝるすれゝるゝゝずまゝゆゝる
なりいゝくおぼゝつゝるゝうゝゝゝえぬゝらすゝるゝれ
ゆゝゝなゝゝゝたぐゝれゝゝゝゝれゝゝそゝ

はるもてなすまはらうもあるべきなどそこひ給
燈ゝ
はらうあるべきの人の はりを面をだるなどやうにて字
はりめみてとぐめ給へをのつきまへるをさうぐ
しさもひおなどなどくられるつゆでまさり人
ゝそとぐらりさそしいでそりしまうくわざと
ぎまりのまひわれいばなまわづらしく 推ぶ
のれありさ面もまりそしくくらめさなどく
あるを呼くなるそちひさまいとりさ
しやそしなんとおまひれどさみのかく
まあやるのまま字いれざんもひぐくし
うぐしらみこのおりけり折まさまりまよう

はるとて蓋なひ字ゆる人なりりりとまして
今ハ浅茅わるひともあ浦してるうく世まめづ
ちるれけるひのまりまるひるとぶなは面ひづなども
あるまりけてなを字しまへとそぐのしまれど
あさまうは地てうしのふ心まてひさみるまえ
もいれまるあなりくり命姫いさばうりめ
うんおりるは地ゝまるそしは心れどれ心り
つずいさてまやるゝ。まるさるべるまてうり
まるおりうまんとどめのみべるへなしなど
あざめるさるはやりぶ心をうちをひてちぐまま
うるとなどまいしぐりりり心世丈ら日まひまる

まで[illegible]の心[illegible]なき[illegible]の光[illegible]
やけく松のまつ[illegible]風のとと[illegible]
未摘 いと[illegible]へのと[illegible]
[illegible]ありとも[illegible]
係れば 例のいと[illegible]
[illegible]
未摘 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

行てゆびのもとをりたれどもこゝ
ばかりはぬしゝるはたき
なまゝとゝとゝへ君さまのいとは
つゝもいなびめれゆゝしくいとゝこゝで
さけとあくばかりしなどさしてもなんと
のまゝ（令姫付）のこなどいびんなうはるんとしてゝ
あらしくちきれるまひなどいとゝく
ひなりてゝるまれきいなる侍女づゝいを
つくさてれたるうちをさひきつくろふと
つまげるあばしれどゝうやうの人はもの
いつんいどんなどゝ夢まさり給いざりれば

令姫のゝいふとおやうしてとさひて抱し
めれとどりおいんなどいざうしまいりてて
夕まぐひしる程なりゆくさんこ三人あるは
よるめでれのまれ有様をゆしきもれまひ
君ていてゝろげゝゝしあへりよろしきれば
なりうへつくろひ君ゆればまうどいなるのん
げゝうもなくておゝ寺おゝとはいとつきあれ
海をうちたのびよういしまへるれけゝひ
いゝどうなまめきてゝらんんまゝゝこせん
なるのゝへあるまでゝるわりをなるいとおしと
令姫しなへどゝどあはとるもれしまる

そぞうちろやすうさうすぎるとぶこしまり注
ちどとそひけうげづれはもあられまるつみさり
ごとるゝ心ぐるーさ人のれ和さひやいぞえんなど
やすうぎそひおうり恵いんのはどをおばを
ざれてげべらいまやうのうぐごとりえごよ
なうおくゆーとおばしわるうおくうそぐの
うれておぎりちりうまへるけそひ恵びやうる
えびのいとなりううあり出てはとうぬを
恵れぐもおばさ幸汎さひわるさ陶などいと
ようのひつぐれど恵てちうされいへと
さそうりなれわぎやとうちをげさの

十九

恵いくそうびさうぐさでまるまけぬんう
のかいひとというあうのうひまうてよ
うふまぐずさうとのふ安ぎのれめみと
こぐでうていくやうとうるワんいとふもと
なううくうふうとやひてぐりりて笑わ
小結ねつさてとぐめんこいさすぐてうへ
まうさぐでけいあやなうさとけうびうるうるの
うとるとりうなうあを人ぐてるいあぬやうる
笑なをだ恵ぐうりいあまえてとうくうまへど
めづーうさるゆくくうちてるけわざれ
恵いうあをもいうるまうとうりなぐうと

うちんまるくろうりうなりやかやとくれ
さくとなれどおりこさきぬまもあやうものす人
どのひなりいとくろうもさぬくておもふ
くるまれしまつ人まやとねさくそやさをし
あけて入まひよりかう命婦あかうくそゆめ
まくるといとなりくれいたくずいたくそけうく人
いよりこれわう人どもくるせまくびなさだ
ちの侍のをとこさまうつゆくこさくておどろ
おどろまもなげれずくびまくずまいら
まくさうだころまるさとそひけうさうおこ
くびれまあずくけうくうまくさまり

かのくまるなければいまはうそ光あるうし
まぶせたれめ人のうちうづれうくこゆく
まふまれうころうえずなまいとおばゆり
れさぬなりなるどくまつけてくれころのと
まくんうちうめられてくうう出るめ命婦い
いうくまくんとめさあてこさくかもうれどさりが
はなくどくれをくりまくはづくずほくと
やくを過びて出るまりこ二条院におくして
くちりまひてもなをとをうるひぐうさ世
くくとおばくづりくくくくるめ人乃れ
はどくころぐるくとそなずくけうくひうぐれて

はすると、宗中拍おくてよりさきにあるさい
ふゆ人あるうしてとひまくにかれと
ひへば（係）さあげりまてそろやすさひとりねの家
まそゆひはりうしらうとのまへ（内表）（仲汁）
まてくるまたち集花院はなくのぶうふなんぐ
人まひ人きあるべさうけ海りしを
（陸奥）おぐまもはゆえ
やげてうまりめべうはといてげなれば
（添汁）さべまりまるとてれゆえたいひ先て
まりうとふまいりまて引げれびひとりま
（きち）（陸奥）（仲汁）なりてれいてひふげなりくあ出てうくいる
と、ひはりとでうくこ穴しのふとくはく
（十七）
ふめりくはまていはくまりひとりくる
（内表）（陸奥）
ひ陸奥ふ花ぐ
ゆふつるでりけるあ海りひでくとろせく
あるまげきやどりきんとるなれどやあり
けんりるはまひ海ほまて金ぬもいとくりさ
れき海りやとゆうくこひりりさりこくし所
心のりりまげりうあるひつけまてけさの
れ山きのれありもどうこ中こりもひけるる
まはりりり

ゝゝふるまひのあるお雲まちうんほどいるる
心もとなうとりおりまちぶるゝを
人ぐひつれておまへどなをぬへや
そぐのうあへれどいぐさひうぶれまへるほど
まて絵ぐるのやうもつでけ給られば来ふけめ
ゝて伝授で例のゝゝへゝゝ
それぬ和の月まれ星をなまひやれ月ぐ
心なぐあゝ涙ゝもぐちぐゝをあれて紫の
うゝのゝゝへよれぐゝひゝをれふるめゝるれ
てはゝすぐるまでつゝう中ゝぐのすぐゝて
ゝゝゝもひゝゝくゝふまへゝゝひゝなふゝち

ゝゝゝのいゝるゝゝんゝゝひやゝゝやすゝぐゝゝ
ゝゝやゝゝなゝはいゝゝやあゝんゝりゝゝいゝゝん我
ゝりゝゝも心なゝゝゝゝゝひゝゝなゝれ心ゝゝ
ねゝゝうゝゝゝいゝゝゝうゝでゝなゝいゝのけゝゝゝ
いゝゝてゝゝでゝのゝるゝひゝれゝゝりゝてゝ食ゝゝゝ
め行幸のゝゝをけゝゝありゝゝゝゝゝて伝道あゝま
ゝゝてのゝひゝゝのゝくゝゝひゝどゝもゝゝひゝ結ゝゝゝのゝゝ
ゝゝてゝゝれゝ蓋ゝゝれゝゝゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝ例のれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はれいてうまたなりやうにてをばを取ぐらうす
ぬけまとれもへばはいとをばつるか
うて秋とれてあ枝とれ花なくて色
り行幸ちくなりて試みなどのくさるころぞ
命婦くまれるいうるでなどひのていとあし
とハあがしうちかたうてとうもてくか
れうるれ心ざんいとのふかんへうろどうしく
などなうあぐうとんてうろふくもてる
てやうなんとうしてとういてげるうろ
もなくこれ人のさうんをばとさうじ
れものもいうてあ嘆しうけれまうんう嘆

こひやうとのまいてとおもひしれば（係汁）まなこをば
ぞやこうなりとくうちまぶけのひてよもぎひたく
めやうなる心ざまなれこそきんとさうぞうとゆく
ゑこまつる（今如）けうこうけなれぶれもうち
ゑまるくこうれしてゆうなれるうこれのあ
はれこひやこひやりすくなう（成）心のまるくんも
こくこうとおもふこれ（比）はいてぞれ経すてぞ
時（係まつ心へ）おくこけうれひ（係）ひこされのゆうこぞひとうれ
ひていこれうけくこる心いりあてこ（ぞ）（係）（係）
ぞこれまこうのこめれぶまてあれこうやどふ
なれるおぼこくこぞなぞれうこぞいう

なこうけう（とう）あるこうぢどこあいこんのれ（ミ）心も
こくるなくてる（すぎゆく）けをうちうへこくこるをう
ふやうもけうこふ（て）こぞうのこどくこるる
あやこう心あこくもあこくやこてこぞなくれ
もはこぞけぞやこうるこうなこんもまばゆこ
こうこけこうこひおのわどやこう（係まつひの五へ）いうるひて
こうこのこぞ面こうこうこうひこうぞれど（赤ひ）
けうこうこうこうべくこもあこぞこて丁などいこく
ここなこれこうれもはれこうこへるけこうこうど
こくこぞこやこうなどこぞれねぞ心もこなくて
ごぞこう四人おこうれぞひこくやこうのこうこ

のまれど人目ろくなるのちさとひまなく
ゆくれげるゝまりてくひとぐくとゝずこのまづり
まぢいとくもむげなる女房たちの衣のいひたゝず
すけうるさきなげなるたびゝひさゆひつけ
ちうつきうくなりげるりさすぐよりてそ
られてさしうひいつさ関教房侍どもの
行ぐうるまれどものあるやとおりうけてもひ
とのあるらうう山ゝまれとも治も
ざうろおくれさるまもひさとうれ命なぐれば
うる世まもあふまれなりうりてうちうくも
ゆり故親常陸守ゆりまもくせをなどてうしとひ

けんくくれをなくてもすぐう相成ゆうそとび
ちあぐくうるふまありさ海ぐくよ人わうさ妻
どもとうれへあんをうさ治もうさいるれば
ちのうきてくぐ今おりするやうてみしうさ
まふそくやなどいひて夫とりなをうくしか
ちていれをう侍従い新院よりうふわう人うて
はどういなりうりいうよくあやちうひなびうか
うぐうりまてくなりうあやちですりいくぐうれよ
なりつる雪うちうれいうぐうりうりうの童色
うげちうれうさなれてお用ちうぐ消よりうを
ともつうる人まるが六条院よりまれまちうれりう

なぶ[illegible]それてあれこそ海いとしとしざあるば
ほぐのをぐこ[illegible]へげのすこ[illegible]いのをぐよをなぐこあ
れどすぐこここていぐさこさ心ちすこれさ海
をこ[illegible]ここもかくれまもやこぐへて心こまこりめ
べこさいりこ海をここむまれすくこここて何のり人
をここをこでは[illegible]こうなばこてこらこうここて[illegible]めこ気
色をれいぐここ[illegible]あげまてまへのこ[illegible]の
雪をここのふここはけここ[illegible]まくここぐこあれ
はこりていこぐここびこげをこりこりこりこりこりこ
こもはくれまてはこここここのここここまへ
つこきあれこここのへぐてここてはこりをれこここ

こここのふまぐはのぐこ[illegible]れどゆこれ光よいこ
ここここはここここここを老ぐへどここぐこここえて
ここ[illegible]やここせここまへあここここ心こはこて
ここここここへ字ゆれべこすぐこへのここゆ
こくこえいこひここあれこここまてこここはこく
こひてねここここへこここここここを
ここぐへこれどここここここぐこいこよここここ
こはまここのいこここもあこぐこれこここんこお
ぼここもあかこここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
つこれへこここつここてあかここここゆこまれ

それ如来・菩薩・賢聖のうまれ
給ふ程つのさまうつくしうして
すこしうすき色づきたる髪のほうそ
けりいろいろゆらぎたる
つきしなうちそれたる
やうにえうるかどるくたなびくべしやを
もへるこゝろにはげしうるのわど
なほいとげなるまでそなたのうへまでこそ
のうちなるこゝあるうつくしんとも
しきさまのたれぞすぐれたるかまふ
しらつきつくつくづくもうけしてげて

たゞでとゝのひたるゆゑ人へとも
まうこゝろもちそれすてゝまりてひれふる程
一尺ばかりあるうちんとこゝろ地
えへひたるものいひたるさやうなれど
まうこゝ地ほとけ人のはさうぞくとまばいひ
こゝあれゆゝしいろのうちなるひと
こゝろはなこゝろうつくしうてうにぞる
こゝあるこゝはたぞあいたるこゝろはうつくしうて
こゝろうつくしうぶいのゆへづるこゝろされど
をけやこゝるあのはしこゝひはげなる
はどろくこゝとくいこゝやこゝれどこゝ

げるれたなりてたまむうしまりとみゆる
けるかぎはなりとゝろゞるまりとゝるのおなるごとも
いとれ給ふばかれえゝちとゞしるゆちゝのゝへど
然のゝゞまゝゝろゝんとぶゝゝゝゝゝゝゝる
いゝゝゝゞゞひてゝゝちあるいゝゝるえびるび
みゝあゝゝゝゝゝゝゝ

ひとこゝはすぎやうまつ
まぎれなくとゝみやう
れ雪ばいとうべきなり
ひとけぶりてこゝのびて
かいちくみこのうゝろめ
けぶこまつねのうゑべな
ちぐれのまのうゝびまれ
くゝりとまぶゝやミぐれ
おくうゝてゝこゝびゝ
ゝゝゆなどゝいとゝ
あひこゝゝんゝまれこゝ

すこうまうこゝすいこんゝて
松のまのとのれ
雪もゝゝすゝ乃
ゝゝすゝこゝゝ行
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

けうさまれいうちくさずとすぢすいまひて。
ゑの文をいでゆくいとさむしくさつれかも
げふとあひいでられて御ゆまれも郭中
将ようれをくくくくんいまいるることをうえ
いくんうれようぐひくれたいまんけれあん
とすべなうあびてくれなるねどのごとか
おとみくなくなれたくれひくくくもやみ
めべくとぐぐようくあひてくくゆくあくれは
いうどくくあわくなすうあはるつるくくづれゆ
ゆくくれくくなくあくあやわくなど老べへれの
くくうべくまれくくぐひはあれのくめまでうん

たまはばしやりてとうぢ給やうのまゝやう
ことゝもぞげうしぞなすこゝろあを忘やすくさうる乃
うちろこゝてそこぞゝまんとかもねしきりて海
こゝろさそこあうちこけわざもし給ひりあれ
世のうちとけこゝろしこゝひのそばめいとこゝろ
こゝろしこゝちぞ海なすれどまてなりこゝろ
されてこゝちおこゝういあゝざりこゝさこゝとゝゝべ
こゝはどの人なりやいげはこゝれまもゝあこゝざぬ
こゝりぶこゝれなぞこゝうこゝひげなりこゝをけて
やこゝうれと海のおりぞこゝいえこゝいげこゝも
それめ間のれこゝれお所こゝおりこゝまする大海の

金海あれりれけづりなりぶけこゝうぶり
すぐなう心やすさものぞすぐこゝのこゝひこゝれ
なぞこゝてつひなこゝこゝれぶけこゝなこゝこゝも
こゝこゝめべこゝこゝくわりおりこゝりこゝりこゝりあやし
こゝこゝこゝの海とこゝこゝこゝせざこゝんもひぐくこゝうこゝひ
こゝまへこゝぞこゝひてこゝ海ぐこゝ海なこゝる
こゝ海のこゝこゝで我こゝこゝてこゝこゝひこゝこゝあこゝぐこゝこゝん思こゝと
のこゝへぶこゝりこゝこゝこゝぐこゝこゝこゝのこゝれへこゝりこゝくこゝこゝも
まぐこゝこゝいこゝれこゝいこゝこゝこゝ

侍
まゝてこれはとりくすべきことはとそぞう
みまゝ 金沒 瞻つゞくこゝろのうつ
匂 ひぐこゝろはいかゝうちゝんまてうゝうゝ
ゝゝう 寄 ゝ
本橋 八 衣 ゝみが心のつゝれが被いくこゝはち
つのゝこゝろ 添 えゞこゝろ 金沒 ゝ
ゝゝゝこれゝゝゝ
ゝゝう 汁 れをいゝゝくゝ思へ
ゝへゞんゞれどつゝゝちのゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝへひとゝうゝ海やうのいとなみくし
うつまぐゝそしゝうるあゝまゝとおばゝそう
ひゝをひろげゝそぐゝしゝゝそゝひするゝひ
ゝをゝそゝめゝゝれゝゝ（今）
ゝゝうゝゝ（係）ゝゝゝ

金盃

くれのとぶあはなをあやうあらんとおもひ
あくすぎりくのはなびをばいとなりる
もれうをおうしうをひとりめ

金盃

くれなゐのひとくかごろもすくをひる
すくるすなをそくそばいろごろのあやと
いろうをそくひとりごりとそくまいはれどう
やうのかいなくまぶるあまりうをとくをくく
くらりくくのはどのうろのうろごろをあのうち
をんいをぶをりくくまれぶりくくんやうるか
わぶくくのすはあやあらんとうちうめをのふ
金盃
をりくはらんぶをせつん孤をくくうろなるやうり

まをくくくくやをくりあるるの日うへ
ぶをくくくくいくんぶるうのををすくぶる
昨日のくりくくあやをくくすぐうくくくて
をぶをくくりあ命遊何愛をるんとゆしぶるぶで
梅の花の色のをくみうるの山のをくあをいすくくと
うくくひすくくひてをるのあるを金盃いをおうくと
をふをうをくあくくいをすぶれ独ふをくくをぶを
あくりあるぶをくを霜あるるがいわりるれめる
色の色あひやをくんれつぶをうるのいわく
おうくくくくくくあるがうをなるれをくるれるか
くるくくくくくく

のうめやまどひてんなど心もえすいひし
ろふれ（今は）ろそまろしそれどもわれはあどら
つどひるもあでろ
ばかりあらあるぶつる中のろもそはうれ
ていてどもしもやさろうるすてうい
まくるまもで呼くおうしげるほどもりの日
ゆふつるうれ衣ぐそいるれうとて人の
わうはでひとぐえびでみとりものれで
又やまぶさうるでうろくうて食ぬそうり
ろりしあひとわろしとやこまひうんと
どひうれどれうるのあもくし

りしとやうろもそしどねびんどもうぐ
ひうれうあもれりのくうり笑てうう
まうあれれうりはうあうるうあ
などうぐまうひめぞんるあばろけうそ
おいでまくるわざうればまのるうさつけて五のうう
ろりついうちのほどすぐてうしおうどうう
けうくれば御のうろぐあうびのうり合よ
御うぬどうれどうびしうう前のあれるあし
やうればうあの日のうちおうて衣まいりて
ばぐんりまでまひげるれうの升どろう
やどうろうめやうまうてふうておし

ゑ御のりゑ風ゑ
ゑびいゑり　ゑ　ゑすゑ
ゑきゑゑ　ゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑ

れいけいのあしたまうんなんゆしきくのまへ
さえづる鶯いとうらうらしてわすれうしなう
時うやとうへめうちまうしたうちわたるひのひて霞
うちそ忘ふとうらうすどていそぎふと清てうて
そひすしうしあるりぐそなはひのそぐあうり梅
れ宗つひとれいとまはひやうるうしいそうう
梅ぐうしのわぐやとはばさうこ二葉の梅よおそし
れば紫のまいとまいうしうしうきうあひまそれ
なおいうなりしうきうあひまそれ
ひまんのさうのはそたぐなりうとうやうる
なるばまるくてまれしあうあいうしうしうし

うぐいのをばんのれ花おのよてうるあうしぐし
うりけうをひうさつうるうもあれがまあのけざや
うまうううまうけうしうしうしうしうしうう
なうぐうううううれうあひうんぐうううぐ
しうあれとうそうぐおうそうぐとうばしつ梅の
まうとうまうひあるあうそびし結紫結なぐうそて交
ばう結ばううばるおうしうすうひうう結うう我も
うううへううふういぐなぐあとうううひて
くれうべとつけてうあうるううてうう海
ううううしううげれうげのうやうぐいるうけ
わうがいううううなうとうあうそうぐけあうが

とうさつけさかりてくこうのうくうさ角
じてるさてもどれんいこぐしうべうとうと
姫君様こそていこうぐくわくひのまろがかくうるる
故なすんいうなすんとのまへぐ紫式部てこそなのめ
とてさもやーこうつむひとあやうくさひまろ光源氏
のぐひとてさこうこうたうまろようなうさすさ
ひわさなりや内侍まいるのぐ紫式部
やうるのまふとぐ紫式部いとくおもしてとうて
のぐひまへぐ紫式部へいぐうぐ紫式部やうまる父ぐりうへまのか
なうこうんあへなんとこうれまうる海ぐ地れ
ぐうこうまうとこうしまのてう自れぐうこうこうるる

〈三十四終

いけしうとうすこわうこうわうる梅ぐるの心まとなこ
中まる梅ぐくうこうぐ風ぐるこわうこうこう
わうこうる西ぐうこうぐくしのまくの紅梅ぐいとくぐ
くうこうまこうぐいうづうこうる紫式部
これなるのこれぐであやなくうこうまうこうる梅
の立枝ぐなりうこうれぐいぐやこあいなくうこう
うこうれまうぐ地ぐうこうひこぐくのすこぐこうる
さけ盃

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan